

別紙様式

## 令和7年度 学校評価自己評価表（中間）

a ミッション		ふるさと世羅を誇りに思い、地域の活性化に取り組む生徒の育成			aビジョン 他者や郷土を大切にし、自ら進んで学び、何事にも一生懸命に取り組む生徒の育成							世羅町立甲山中学校					
評価計画							自己評価				学校関係者評価			改善計画			
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	2月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明		k 二次評価 イ 口 ハ	l コメント	m 改善案			
						g 達成値	g 達成値										
確 か な 研 究 主 任 の 育 成	基礎学力及び コミュニケーション能力を高め、自発的に他者と協働して課題解決を図る生徒の育成	基礎学力（知識・技能）の向上を図る。	・各学力調査結果の分析に基づく学力向上に取り組む。 ・家庭学習の習慣化に向けた取組を充実させる。 ・各教科の目標達成のため、1人1台端末を効率的に活用する。	・全国学力・学習状況調査及び標準学力調査の平均正答（通過）率	全国以上	全国学力・学習状況調査及び標準学力調査の平均正答（通過）率 基準1.3% 达成14.3% 合格5.6%～14.3% 備5.6%～5.0%		33%	D	・全国学力・学習状況調査の結果、理科のみ全国平均を上回ることができたが、数学が全国比14.3Pと大きな課題である。結果分析を丁寧に行い、授業改善につなげるとともに、本年度からの新たな取組、「学力アップタイム」や「自主学習ノート」などを進めしていく。		7	・毎日の意識として、「家に帰ったら宿題がある」というのが大事である。学力アップタイムや小テストなどを続けてやってもらいたい。 ・数学に課題があるようだが、小学校の算数からの影響もあると思う。 ・全国学力テストの結果はD評価だが、実力的にはもう少し上のようにも思つ。2学期：3学期に期待したい。 ・引き続き、苦手な教科を克服するための工夫をお願いしたい。 ・学力調査の結果を丁寧に分析し、改善策につなげてほしい。	△生徒の実態に応じて、学力アップタイムの難易度を変更したり、自生ノートの取り組み方を再検討したりする。 △授業の中で習得した知識・技術を活用する場面を仕組む。 △家庭学習を習慣化させるため、毎週一定量の課題を課す。保護者にも声掛けをしていただくよう、「まなびポケット」で課題の内容を周知する。 △国や県などのICT機器の活用事例を周知し、ICT機器を積極的に活用するよう促す。			
						80%	53.0%		C	・毎日60分以上家庭学習していると回答する生徒の割合（R6：25%）							
						90%	34.0%		D	・家庭学習時間は、昨年度末に比べて割合は上昇したもの、目標値を達成することはできなかつた。実施する内容の精査を行い、家庭学習習慣の定着につなげる。 ・毎日デジタル機器を十分活用している状況ではない。教科による差異も見られるため、校内研修等で活用事例を紹介するなど、効果的な活用法を促す。							
		ねらいや目標を具体的に示し、「主体的・対話的で深い学び」を促す授業を進める。	・「主体的・対話的で深い学び」を促す授業改善に取り組む。 ・教員が「一人一研究」を行い、その検証として講師を招聘した授業研究を行つ。	・各教科の授業において「授業内容がよく分かっている」とより肯定的に評価する生徒の割合（R6：67.5%）	80%	平均62.9% 基礎52.4% 理系54.9% 数理53.4% 英語51.1% 美術51.1% 保健54.4% 探求59.4% 家庭54.9% 英会44.4%		67%	C	・各教科の授業において「授業内容がよく分かっている」とより肯定的に評価する生徒の割合（R6：67.5%）							
						90%	2回実施 (1学期現在)		D	・講師を招聘した授業研究を行う教員の割合		・講師を招聘した授業研究を行つた教員の割合は十分ではない。一層の授業改善を図る。 ・1学期は講師を招聘した授業研究を2回実施できた。2学期には全員が実施する予定である。					
（生 徒 指 導 か 主 な 事 心 の 教 育 務 主 任 ）	豊かな人間性と自信の良さを認めあえる生徒の育成	生徒の自己肯定感を高め、自信を持たせることで、不登校の改善を図る。	・SSTを中心とした不登校等生徒の支援を行い、良好な人間関係を築くためのスキルを育てるためにソーシャル・スキル・トレーニング（SST）に取り組む。	・「自分には良いところがある」とより肯定的に評価する生徒の割合（R6：67.5%）	80%	50.4%		63%	C	・「自分には良いところがある」とより肯定的に評価する生徒の割合が、2年61.0%、3年60.4%だったが、1年29.5%と伸び悩んだ。総合的な学習の時間や学校行事等を中心に、関わり合い、互いの良さを認め合う場を意図的に設けよう。		7	・不登校の状況が、他の生徒の呼び掛けなどで好転してきたというのは大きな成果だと思う。 ・生徒に活動する意欲を養えさせることで、自信につながると思う。 ・不登校生徒に対して、真剣に取り組まれていると思う。 ・生徒が地域の行事等に参加しやすくなっています。 ・さらに、学校、家庭、地域の連携を深めていきたい。	△総合的な学習の時間や生徒会活動など、生徒の主体的な活動を組み、生徒の意欲的な姿を積極的に認めていく。 △支援Coをを中心に組織的な生徒支援を続けていく。 △自治センターと連携しながら、クリーン大作戦などの体験活動を通じて地域とのつながりをさらさらに深めていく。			
						50%	50.0%		A	・不登校等の状況が好転する生徒の割合（R6不登校児童・生徒：10名）		・部活動や家族、地域からの声かけなどを見きかげとして、積極的に地域の行事などに参加する生徒が増えている。					
		地域に積極的に関わる、ふるさと世羅を大切にする心を育てる。	・コミュニケーション・スクール（CS）を一層推進し、学校運営協議会も活用しながら、地域行事等について積極的に情報発信する。	・今住んでいる地域の行事などに参加した」と回答する生徒の割合（R6：72.5%）	80%	75.9%		95%	B	・部活動や家族、地域からの声かけなどを見きかげとして、積極的に地域の行事などに参加する生徒が増えている。							
子供と向 き合 う時 間の確 保 (教頭)	働き方改革を推進し、「子供と向き合う時間」の確保を図り、教職員が生き生きと働く職場を実現	教職員のタイムマネジメント力を高め、業務の見直しを行い、時間外勤務を縮減する。	・毎週の定時退校日を5時間授業にして業務に使える時間を捻出したり、業務の精選をしたりして、「子供に向き合う時間」を確保する。	・定時退校日に定時退校している教職員の割合（R6：84.7%）	90%	88.9%		98.8%	B	・年度当初から定時退校日を「5時間授業（150分定時下校）」にしたり、テスト期間中の時間割を工夫したりするなどして、教員が業務に使える時間の確保を行つた。		7	・時間割の工夫や意識の変化で退校時間が改善できているのは良いことだと思う。 ・時間割ができたことによってテストを作ったりする時間の工夫をしたりすることにつながると思う。 ・引き続き、定期退校できるようにお願いしたい。	△ 引き継ぎ、タイムマネジメントに関する指導の徹底と、業務に使える時間の確保に取り組む。 △ 業務過多な教員が抱いている業務の再分配を行い、可能な限り、業務量の均一化を図る。 △ 業務の多い季節は、柔軟に退校目標時刻を設定する。			
・時間外勤務が月60時間以下の教職員の割合（R6：100%）	100%	94.4%		94%	B	・原則として「19:00までに退校」というタイムマネジメントの意識が定着してきており、進捗に応じた業務の柔軟な遂行を行つた。											

【自己評価 評価】  
A: 100 ≤ (目標達成)  
C: 60 ≤ (もう少し) < 80

B: 80≤(ほぼ達成)<100  
D: (できていない)<60

【学校関係者評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。